

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑳

- 男性 / 28歳
- 職業/年次： 運送業
- 居住エリア： 墨田区
- 居住形態： 一人暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年 GWの計画： 国内： 栃木（1泊ドライブ） / 予算： 3~4万
- 2026年 夏休みの計画： なし（自宅過ごす）

<結果サマリー>

運送業の日常を、自車で知らない道を楽しむ「イベント」に塗り替え、人生を自分で動かしている手応えを得る

1. 導入

根拠： 仕事は運送業の5年目であり、「誰にも邪魔されずに自分のペースで動ける」ことを重視している。休日は体のきつさから昼過ぎまで寝て過ごすことが多いが、夜中に自分の車で「頭を空っぽにする」ために目的もなく走ることをリフレッシュとしている。

推論： 日常が「時間に追われる」「事故を起こせない緊張感」といった外部からの規律に支配されており、その反動として「自分の意思だけで動かせる時間と空間」への渴望が極めて強い。仕事と私生活の境界線を「運転」という同一の行為で引きつつ、その内実を「強制」から「自由」へと反転させることで精神の均衡を保っている。

FD： この対象者にとって、日々の生活は「削られるもの」であり、自らの属性を「ただの運送マシーン」ではないと再定義するための個人的な時間・空間の確保が、生存に不可欠な関心事となっている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠： GWは地元の友人と栃木へ1泊ドライブに行く。行き先は「近すぎず遠すぎない」消去法での選択であり、予算3~4万円を捻出するためにコンビニ利用を控えるなどの調整を行っている。一方で夏休みは「暑さ」と「混雑」によるストレス、そして金銭的理由から「家で過ごす」と割り切っている。

推論： 旅行を「贅沢」ではなく「イベント」と捉え、自身の可処分所得から逆算した「別のゲーム」として攻略している。物価高や燃料高に対し、滞在日数や食事のランクを下げることで適応しているが、「自分の車で走り、友人とその実感を共有する」というコア体験だけは、コスト削減の対象から外している。

FD： 2026年の現在、20代の対象者にとって旅行は「無理やりにでも外に出る理由を作る」ための投資である。コスト増に対しては、情緒的な満足度を損なわない範囲での徹底的な「スケールダウン」という戦略的判断を下している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠： デジタル旅行や鉄道旅行には関心を示さず、「自分の体に馴染んだ車」を操ることに固執する。将来的な経済不安に対し、回数や質がボロボロになっても「自分の意思でどこかへ向かっている感覚」だけは守りたいと語る。

推論： 旅行の意味を、目的地での消費ではなく「移動の主体性」に見出している。レンタカーや公共交通を拒絶するのは、それが「自分自身の手足」ではないからであり、移動手段が自身のアイデンティティと直結している。

FD： 対象者にとっての旅行とは、社会的な制約や経済的な困窮の中でも「自分のハンドルを握り続ける」という主体性の回復行為である。どれほど生活が圧迫されても、移動という手段を通じて「自分の人生を自分で動かしている」という手応えを得ることだけは、代替不可能な価値として残る。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠： 「自分の車を動かして、知らない場所へ行くことだけは、ガソリン代だけはなんとか工面して守りたい」という発言に象徴されるように、あらゆるコストを削っても「自走」という体験に固執している。

推論： 仕事においても「一人でいられる時間」を求めて運送業を選んでおり、一貫して「他者に侵食されない領域」を維持しようとする行動原理が見て取れる。内的矛盾として、孤独を愛しながらも、旅の実感を「友人と共有する」ことで初めて「移動」が「イベント」に昇華されるという、他者評価ではない「直接的な共感」への欲求も併せ持っている。

FD： この対象者にとっての旅行は、もはや余暇やレジャーの範疇を超え、日々摩耗していく「自分という人間の輪郭」を、馴染んだ機械（自車）と未知の風景を通じてなぞり直すための、極めて切実かつ具体的な「個の維持活動」である。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの日の過ごし方について、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

まずは、お名前……はあだ名でも構いません。それから、今どちらのエリアにお住まいで、どのようなお仕事をされているかなど、簡単に自己紹介をしていただけますでしょうか。

【対象者】 あ、よろしくお願いします。名前はタカシをお願いします。今は墨田区で一人暮らしをしていて、仕事は運送業をやっています。トラックの運転ですね。

【インタビュアー】 タカシさん、ありがとうございます。墨田区にお住まいで、運送のお仕事をされているんですね。お仕事は、お休みの日が決まっていたり、不規則だったりするのでしょうか。

【対象者】 基本は日曜休みなんですけど、あとはシフトでパラパラ入る感じです。土曜が休みになることもあれば、平日に休みがくることもありますね。

【インタビュアー】 なるほど。そういったお休みの日は、普段どのように過ごされることが多いですか？

【対象者】 そうですね……だいたい寝てますね（苦笑）。体がきついのもあるんで、昼過ぎまで寝て、そこから録り溜めた番組見たり、YouTube 流したりして。たまに近くの銭湯行ったり、買い物に出るくらいで、基本は家でダラダラしてるのが一番落ち着きます。

【インタビュアー】 お仕事柄、お体も使われるでしょうし、家でゆっくりされるのが心地よいのですね。ちなみに、最近何かハマっていることや、これを楽しみにしている、といったことはありますか？

【対象者】 ハマってること……。まあ、強いて言えば車ですかね。仕事でも運転してますけど、自分の車で夜中にちょっと遠くまで流しに行ったりするのは好きです。特に目的地があるわけじゃないんですけど、音楽聴きながら運転していると、頭が空っぽになるというか。

【インタビュアー】 夜中にご自身の車で走るのが、一つのリフレッシュになっているんですね。その「頭が空っぽになる感じ」というのは、具体的にどういう感覚なんですか？

【対象者】 仕事の時は常に時間に追われてるし、事故起こせないっていう緊張感があるじゃないですか。でも自分の車だと、どこで曲がってもいいし、誰にも文句言われたい。その自由な感じが、なんていうか、リセットされる感じがするんですよ。

【インタビュアー】 新卒の時から今のお仕事をされているのでしょうか。今、何年目くらいになりますか？

【対象者】 いや、新卒の時は別のことやってました。最初は地元の工場で働いてたんですけど、そこを2年くらいで辞めて。今の運送の仕事に就いてからは、今年でだいたい5年目になりますね。

【インタビュアー】 5年目なのですね。工場でのお仕事から今の運送業に移られたのには、何かきっかけがあったのですか？

【対象者】 工場は、ずっと同じ場所で単純作業っていうのが自分には合わなくて。もともと運転が好きだったっていうのもあるし、こっちの方が「一人でいられる時間」が長いんですよ。さっきも言いましたけど、誰にも邪魔されずに自分のペースで動けるのが、性格的に合ってるんだと思います。

【インタビュアー】 一人で自分のペースで動けることが、タカシさんにとって大事なポイントだったのですね。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】ありがとうございます。では、今年の大連休の過ごし方について伺わせてください。まず、今年のゴールデンウィークの計画は、どのようになっていますか？

【対象者】GWは、1泊2日で栃木の方にドライブに行こうかなと思ってます。自分の車で行って、あっちで一晩泊まって帰ってくるくらいの、ゆるい感じです。

【インタビュアー】栃木へ1泊2日のドライブですね。具体的に、栃木のどのあたりに行って、何をしようと考えているのですか？

【対象者】具体的な場所は、日光とか那須の方まで行けばいいかなと。特に「ここを観光する」って決めてるわけじゃないんですけど、山の方を走って、適当な温泉宿に泊まって。あとは美味しいもん食って、また走って帰る、みたいな。本当、ただのドライブの延長ですね。

【インタビュアー】「山の方を走って温泉宿に泊まる」という行程ですね。宿は、こういった基準で選ばれたのでしょうか。

【対象者】宿は……正直、寝られればどこでもいいというか。あんまり豪華な旅館とかは求めてなくて、車がちゃんと止められて、温泉があればいい。今回は、ネットで適当に探した1万5千円いかなくらいの、普通のビジネスホテルに近いような温泉宿にしました。

【インタビュアー】「車が止められて温泉があればいい」という基準なのですね。宿泊費を1万5千円以下に抑えられたのは、何か理由があるのですか？

【対象者】まあ、今はガソリン代も高いですしね……。移動にお金がかかる分、寝る場所にはそんなにかけたくないっていうのが本音です。

【インタビュアー】今回、栃木を目的地に選ばれたのは、何か理由があったのですか？

【対象者】うーん、正直に言うと「消去法」みたいなところもあります。渋滞がひどすぎなくて、自分の車でサクッと行ける距離。あと、最近ガソリン代がバカにならないので、あんまり遠出すると移動だけでお金が飛んでいくじゃないですか。栃木なら、高速代も燃料代もそこまで膨らまないかなって。

【インタビュアー】「消去法」という言葉がありました。栃木以外に候補に上がった場所はあったのでしょうか。

【対象者】最初は、もっと足を伸ばして能登とか、北陸の方も考えたんですけどね。でも、あっちまで行くと2泊はしたいし、そうなると宿代も倍かかる。それにGWの時期のあっちの方は、どこも高くて。結局「1泊で、自分の車で完結できる範囲」って絞っていったら、栃木がちょうど良かったんです。

【インタビュアー】なるほど。費用面のお話が出ましたが、今回のGWの予算は全体でどのくらいを想定されていますか？

【対象者】全部で3万、いっても4万くらいに収めたいですね。宿に1.5万、ガソリンと高速で1万、あとは現地でメシ食って終わり、みたいな。

【インタビュアー】3万から4万という予算設定ですね。この金額は、タカシさんの普段の生活費と比較して、どのように位置づけているものですか？

【対象者】普段の生活は、家賃とか光熱費払ったら、自由に使えるのは月5万あるかないかくらい。だから、GWの1泊に3万出すっていうのは、自分の中では結構な「遊興費」です。これを出すために、今月はコンビニ行くの控えたり、自炊増やしたりして調整してますね。

【インタビュアー】 普段の生活を削って捻出されているのですね。今回の計画を立てる上で、本当はやりたかったけれど「我慢したこと」や「諦めたこと」は何かありますか？

【対象者】 本当は、もっと「いい宿」に泊まって、贅沢な懐石料理とか食べたかったです。でも、今は物価も上がってるし、外食一回するのも高くなった。だから「温泉に入って、地元のラーメン食って帰る」くらいに計画をスケールダウンしました。無理して高い金払っても、後で生活が苦しくなるだけなんで。

【インタビュアー】 生活への影響を考えると、スケールダウンされたのですね。では、続いて「夏休み」についても伺わせてください。夏休みはどのように過ごされる予定ですか？

【対象者】 夏は、特にどこも行く予定ないです。家で過ごします。

【インタビュアー】 夏は「家で過ごす」と決められたのには、何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 夏はどこ行っても混んでるし、何より「暑さ」が……。仕事でずっと外にいるようなもんなので、休みの日にわざわざ外に出て、高い金払ってまで人混みに揉まれたくないっていうのが正直なところなんです。あと、GWにちょっと使っちゃうんで、夏は貯金に回したいなって。

【インタビュアー】 仕事環境や体力の面、それに金銭的な優先順位も関係しているのですね。GWと夏休みで、あえてこのように「一方は行く、一方は行かない」とバランスを取られたのですか？

【対象者】 そうですね。どっちも行くっていうのは、今の給料じゃちょっと厳しい。どっちか一つに絞るなら、まだ気候が良いGWかなと。夏はエアコンの効いた部屋で、ゲームしたり映画見たりしてるのが一番コスパいいし、体も休まりますから。

【インタビュアー】 「コスパ」という言葉が出ましたが、タカシさんにとっての旅行における「コスパ」とは、具体的にどういう状態を指しますか？

【対象者】 「払った金額以上に、ストレスが解消されるかどうか」ですかね。高い金払って、渋滞にハマって、人混みで疲れて帰ってくるのは、僕にとってはコスパ最悪です。それなら、安く済ませて家でゆっくりしてる方がよっぽど「得」な気がしちゃうんですよ。

【インタビュアー】 「払った金額以上のストレス解消」が基準なのですね。ちなみに、去年（2025年）と比べて、今年のお休みの過ごし方で意識的に変えたこと、あるいは変えざるを得なかったことはありますか？

【対象者】 去年より「予算」に対してシビアになった気がします。去年はもう少し「せっかくの休みだし」って思って、2泊したり、ちょっと高いメシ食ったりもしてたんですけど。今年は、とにかく全部が高い。ガソリンも、宿代も、飯も。だから「どこを削るか」を先に考えないと、旅行が成立しなくなってきた感じがします。

【インタビュアー】 「どこを削るか」を先に考えるようになったと。具体的に、去年に比べて一番「削らざるを得ない」と感じているのはどの部分ですか？

【対象者】 やっぱり「滞在時間」と「食事のランク」ですね。2泊を1泊にしたり、宿の夕食を付けずに外の安い店で済ませたり。前は「旅行＝贅沢」だったけど、今は「旅行＝いかに安く、非日常を味わうか」っていう、なんか別のゲームをやってるみたいな感覚です。

【インタビュアー】 「別のゲーム」をやっているような感覚なのですね。

ちなみに今回の栃木への1泊旅行は、お一人で行かれる予定ですか？

【対象者】 あ、いや、地元の友達と二人です。中学からの腐れ縁みたいな奴がいて、そいつも車好きな

んで。お互い自分の車で、2台で連なって走る感じですね。

【インタビュアー】 ご友人と、それぞれご自身の車を出して行かれるのですね。そもそも、今年のGWに旅行に行こうと考えたきっかけは何だったのでしょうか。ご自宅や地元でゆっくり過ごすという選択肢もあったかと思いますが。

【対象者】 きっかけ……。うーん、正直に言うと「何かしておかないと、休みが全部寝て終わっちゃうな」っていう焦りみたいなものですかね。仕事で毎日同じルートを往復して、休みは家でダラダラして。それが続くと、たまに「俺、何やってるんだっけ」って思う瞬間があるんですよ。

【インタビュアー】 「何やってるんだっけ」と思う瞬間。

【対象者】 そう。だから、無理やりにでも「どこかへ行った」っていう事実を作りたいというか。地元においても結局、パチンコ行くかコンビニ行くかくらいしかないし。それなら、ガソリン代払ってでも知らない場所の空気吸いに行ったほうが、まだ「生きてるな」って感じがする。まあ、贅沢はできないですけど、そのくらいの「非日常」は自分に許してあげないと、仕事のモチベーションが保てないっていうのはあります。

【インタビュアー】 「生きてるなという実感」や「仕事のモチベーション」のために、あえて移動を選んでいるのですね。

お友達とは中学からの腐れ縁ということですが、タカシさんご自身は、ご出身はどちらになるのですか？

【対象者】 出身は茨城です。その友達も同じ中学で。今はあいつもこっちに出てきて働いてるんですけど、たまに集まって車出したりしてますね。

【インタビュアー】 茨城のご出身なのですね。地元へ帰省したり、あるいは地元で集まったりするのはなく、あえて「栃木へドライブ」という形になったのは、何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 地元へ帰っても、結局いつもの風景だし、親もうるさいし（苦笑）。わざわざ休みを潰して帰るほどでもないかなって。それなら、中間地点というか、少し離れた栃木あたりを流してるほうが気楽なんですよ。お互い実家を出て一人暮らししていると、そういう「どこにも属してない場所」に行くのが一番リラックスできる気がします。

【インタビュアー】 ご実家が茨城であれば、栃木はそれこそ「地元感」があるというか、馴染みのあるエリアですよ。改めて、なぜあえて今、栃木を行き先に選んだのでしょうか。

【対象者】 うーん、確かに地元感はあるんですけど、なんて言うか「ちょうどいい距離」なんですよ。茨城の地元からだと、栃木ってすぐ隣でわざわざ泊まるような場所じゃない。でも、今住んでる墨田区からだと、高速乗って2時間弱くらいで、ちょっと遠出した感が出る。その「近すぎず遠すぎない」感じが、今の僕らにはちょうど良かったんです。

【インタビュアー】 「近すぎず遠すぎない」ことがポイントだったのですね。

【対象者】 あと、やっぱり車ですね。走り慣れた茨城の道じゃなくて、日光とかのいろは坂みたいな、ちょっと運転が楽しい道を自分の車で走りたい。地元はただの生活道路ですけど、栃木の山の方は「走りに行く場所」って感じがするので。僕らにとっては、観光地に行くっていうより「あの道を走りに行く」のがメインかもしれません。

【インタビュアー】 観光よりも「道を走りに行く」ことが目的なのですね。今回の計画を立てる際、お友達とはどのようなやり取りをして決めたのですか？

【対象者】 LINEで「GW どうする？」ってなって。「金ねーよな」とか言い合いながら（笑）。でも「どっか行かねーと腐るわ」って話になって、お互い車出せて、1泊なら数万で収まる栃木に落ち着いた感じですよ。派手なことにはできないけど、とりあえず「外に出る理由」が欲しかったんだと思います。

【インタビュアー】 それぞれ自分の車に乗って移動されるのであれば、実質的には一人で運転している時間も長いんですよね。それでも、一人旅ではなくお友達と一緒に旅行に行くことにしたのはなぜなのでしょう。

【対象者】 あー、確かに運転してる時は一人なんですけど。でも、休憩で寄ったサービスエリアで「今の道、最高だったな」とか、宿でメシ食いながら「あのコーナーきつかったわ」とか、そういうのを言い合える相手がいるかどうかで、結構デカいんですよ。

【インタビュアー】 「言い合える相手がいること」が大きいんですね。

【対象者】 そうですね。一人で走って、一人で温泉入って、一人でメシ食って……。それもたまにはいいんですけど、それだと「ただの移動」で終わっちゃう気がして。友達と行けば、その時間が「イベント」になるというか。それに、もし車にトラブルがあった時とかも、仲間がいた方が安心っていう現実的な理由もあります。

【インタビュアー】 「ただの移動」を「イベント」にするために、お友達の存在が必要だったと。

【対象者】 結局、SNSとかで誰かに見せるためじゃなくて、その場で「あそこ良かったな」って共有できる人間が一人いるだけで、わざわざ金と時間を使って遠出した意味が出るんだと思います。一人だったら、たぶん途中で面倒くさくなって引き返しちゃう気がしますね（笑）。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 今後のことについて伺わせてください。もし制限がないとしたら、今後やってみたい旅行などはありますか？

【対象者】 そうですね……。いつかは自分の車で北海道を一周してみたいっていうのはありますね。フェリーに車を載せて。仕事でも長距離を走ることはありますが、それこそ仕事じゃなくて、自分の好きな車で、ただひたすら北海道のまっすぐな道を走るっていうのは、昔からの憧れというか。

【インタビュアー】 北海道を自車で一周することへの憧れがあるんですね。一方で、最近では「青春18きっぷ」のような鉄道での格安旅行や、あるいはYouTubeで絶景を見たり、イマーシブ型の疑似体験をする「デジタル旅行」といったものもありますが、そういったものについてはどう思われますか？

【対象者】 18きっぷは、僕にはちょっと無理かな……。電車で揺られてじっとしてるのが、あんまり得意じゃないんで。やっぱり自分のハンドルを握って、自分のタイミングで止まったり動いたりしたい。デジタル旅行っていうのも、たまに寝る前にYouTubeで絶景動画とか見ますけど、それはあくまで「暇つぶし」であって、旅行とは別物ですね。空気を吸ったり、あのエンジンの振動とか、そういうのがないと「行った」ことにならない気がします。

【インタビュアー】 「空気を吸う」「エンジンの振動」といった実感がないと、旅行とは呼べないんですね。では、改めて伺いますが、タカシさんにとって「旅行」とは何でしょうか。ご自身の生活の中で、どのような意味を持つものだと考えていますか。

【対象者】 うーん……。「自分を取り戻すための、最低限の贅沢」ですかね。

【インタビュアー】 「自分を取り戻すための、最低限の贅沢」。その言葉を、もう少し詳しく教えてくださいませんか？

【対象者】 さっきも言いましたけど、仕事は毎日同じことの繰り返しで、精神的にも結構削られるんです。休みの日も、ただ寝てるだけだと「生きてる」っていうより、単に「死んでない」だけみたいな感覚になっちゃう。でも、ちょっと無理してでも遠くへ行って、自分の好きな車を走らせて、知らない景色を見る。そうすることで、「ああ、自分はただの運送マシーンじゃなくて、ちゃんと自分の意思で動いてる人間なんだな」って思えるというか。それが僕にとっての旅行の意味だと思います。

【インタビュアー】 「ただの運送マシーンではない」と実感するための行為なのですね。ただ、今後さらに物価が上がったり、社会保険料の負担が増えたりといった経済的な制約が強まっていくことも予想されます。そうした中で、タカシさんの「旅行」はどうなっていくと思いますか？

【対象者】 正直、かなり厳しくなるだろうなと思います。今ですら「ガソリン代が高いから栃木で我慢」って言ってるくらいですから。これ以上負担が増えたら、宿泊を伴う旅行は年に1回行けるかどうか、っていうレベルになるかもしれない。

【インタビュアー】 「こうしたい」という要望と、「現実」はそれぞれどうなっていくそうですか？

【対象者】 要望としては、やっぱり年に数回は遠出したいですよ。でも現実には、宿泊を諦めて「日帰りドライブ」が増えていくんだろうなと思います。メシもコンビニで済ませて、とにかく「走ること」だけに特化して、コストを削りに削る、みたいな。

【インタビュアー】 そうした「削らざるを得ない」という予想に対して、タカシさんご自身はどう捉えていらっしゃるんですか？

【対象者】 ……まあ、しょうがないですよ。国がどうこうできるわけでもないし、僕の給料が急に上がるわけでもない。でも、それで「どこにも行かない」ってなると、本当の意味で心が腐っちゃう気がするんです。だから、たとえ回数が減っても、中身がボロボロになっても、なんとかして「外に出る」ことだけは続けていくんだろうな、と。

【インタビュアー】 制約が強まっても、これだけは譲れない、これだけはやりたいと思うことは何ですか？

【対象者】 「自分の車を動かして、知らない場所へ行く」こと。これだけは、どんなに金がなくても、ガソリン代だけはなんとか工面して守りたいです。宿が安宿でも、飯がカップラーメンになっても、自分の意思でどこかへ向かっているっていう感覚だけは、捨てたくないですね。それがなくなったら、たぶん仕事をする意味もなくなっちゃうと思うので。

【インタビュアー】 ということは、今後もタカシさんにとっての旅行は「自分の車で行く」ことが前提になるのでしょうか。例えば海外旅行や、国内でも飛行機で飛んで行った先でレンタカーを借りる、といった旅行にはご興味が薄いんですか？

【対象者】 あー……そうですね、海外は全然興味ないです。言葉も通じないし、わざわざ高い金払ってまで行きたいとは思いません。レンタカーも、なんて言うか「道具」としてはいいんですけど、やっぱり「自分の車」じゃないと意味がないんですよ。

【インタビュアー】 「自分の車じゃないと意味がない」というのは、具体的にどういうことでしょうか？

【対象者】 仕事でも毎日トラックを運転してますけど、あれはあくまで仕事の道具。でも自分の車は、

自分で金貯めて買って、パーツも少しずついじって、自分の体に馴染んでるものなんです。その「自分の分身」みたいな車と一緒にどこまで行けるか、っていうのが僕にとっては大事で。だから、レンタカーの知らない車を運転しても、ただの「移動」になっちゃうんですよ。自分の車を走らせて、エンジンの音を聴きながら景色が変わっていくのを見るのが好きなんです。正直、ガソリン代や維持費を考えたら効率は悪いんでしょうけど、そこを切り離しちゃったら、僕にとっての旅行の楽しさは半分以下になっちゃう気がします。

【インタビュアー】 本日は貴重なお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。お伺いしたいことは以上となります。お忙しい中、お時間をいただき本当にありがとうございました。

【対象者】 あ、はい。こちらこそ、ありがとうございました。